

議会だより



心を込めてうたいます 一町内の子ども達

- マイスター工房八千代は立派な企業 ▶ 2
- 平成24年度も健全財政を維持 ▶ 4
- こんなとないこれどうなってるの 8人が一般質問 ▶ 7
- TPP交渉からの撤退の意見書を提出 ▶ 17
- 敬老の歌にカンパイ ▶ 18

9月定例会

敬老の歌に カンパイ



敬老の日発祥の町・多可町に敬老の歌ができ、9月11日に表彰式と公募合唱団による曲の発表会がありました。

1310点応募された歌詞の中から、八千代中学校3年生の小西洋哉君の「きっと ありがとう」が選ばれました。すばらしい歌を作詞した小西君に取材してきました。

どのようなことを思いながら作詞したのですか。

小さいころからお世話になっていて、じいちゃん・ばあちゃんへの感謝の気持ちを書きました。

小さい頃のおじいさん、おばあさんとの思い出はどのようなものですか。

じいちゃんの色々、こちそうを買ってきてくれたり、ばあちゃんとカニとか虫とかをよく捕りに行っていました。両方もよく遊んでもらいました。



「お年寄りが住みよい町になってほしい」と語る小西くん

ベルディーホールでの発表会の舞台で、この歌を聞いてどんな思いでしたか。

すばらしい曲になっていたので感動しました。

今から先、この歌がどのように使われていけばいいと思いますか。

敬老会とかでお年寄りのためにみんなで歌って、やさしい気持ちになってもらったらいいです。

多可町がお年寄りにとってどんな町であってほしいですか。

多可町もバリアフリー化が大分進んでいますが、もっとお年寄りが住みよい町になってほしいです。

町内のお年寄りになにか言えますか。

歌詞の中にも一部あるのですが、元気で長生きしてほしいです。

編集後記

この期は議会改革の全国的な流れの中で、多可町議会でも数々の改革を進めてきました。

一般質問での一問一答方式の導入により一つの質問の後に、それに対する答弁が出てくるので分かりやすくなり、議論が生まれ、焦点が見えやすくなってきました。

また、議員間討議の実施により他の議員の考え方が明確になったり、自分の考えを同僚議員に示すことができるようになり、議会の活性化に繋がってきました。

また、説明責任を果たすために議会報告会も実施しました。

まだまだ十分な改革にはなっていませんが、次期の議員の皆様には議会改革の推進を託したいと思います。ありがとうございます。

広報委員一同

マイスター工房

八千代は立派な企業



いつも大人気です -マイスター工房八千代-

9月3日から27日までの25日間の会期中、第2期最後の定例会が開かれました。24年度の決算認定や各会計補正予算案、条例改正案4件、TPP交渉からの撤退を求める請願、環境税の創設を求める意見書などを審議しました。

今期定例会には2回補正予算案が提案されました。定例会初日に町長より提案された補正予算案は、人件費の補正や事業の精査によるもの他に、マイスター工房八千代の施設改修と増設に対する補助金700万円が計上されました。2回目に提案された補正予算案は、9月2日の豪雨災害からの復旧費です。

町施設の改修費をなぜ補助するのか

今回の補正予算では、特産品販売で大きな実績を上げているマイスター工房八千代への補助金が問題となりました。この補助金700万円は、マイスター基金(マイスター工房八千代交流施設管理基金)580万

円と一般財源からの120万円が原資です。
問 700万円の補助金は何に使うのか。
答 120万円は施設改修に、580万円は増設される建物に充当されます。
問 改修される施設は、誰の建物か。
答 町の施設です。

一般的にマイスター工房八千代と呼ばれている施設は、町の施設とマイスター工房八千代の自前の施設とで構成されています。

議会ではまず、町施設の改修は、修繕費や工事請負費で計上すべきと結論しました。次にマイスター工房八千代は、これ以上町費で支援すべき事業体であるのかないのか

予算委員会では全額削減

これら議論の結論を受けて、予算決算特別委員会では、安田昇司委員、横山鎌造委員より、マイスター工房八千代への補助金700万円を全額削減する修正動議が提案されました。安田委員は、
 ①販売額が一定額に達したら自立すべき。
 ②マイスター工房八千代は、完全に譲渡すべき。

基金は交付するつもり

最終的に決定する本会議では、高澤榮子議員、草別義雄議員の2人から、マイスター基金の580万円は、マイスター工房八千代に交付することで、今後は町費からの支援は一切無い、というメッセージを強調できるとの提案があり、採決の結果、賛成10人、反対2人で可決しました。

討論

基金をなくすチャンスをつぶす

高澤 榮子
 補助金全額の700万円を減額しては何の解決にもならない。肝心なのは、マイスター工房に独立してもらい、一般財源からの支援をやめること。基金からの支出580万円を認めることで基金はゼロになる。機会をつぶすな。

事業基盤確立施設は独立を

竹本 克之
 新たな調理場の整備は、納入先との商取引の関係から先送りは問題がある。基金の580万円を充当すべき。現有施設の補修費120万円は緊急を要しないとされる。町費投入は見送り、立派に成長した事業所は独立すればよい。

施設改修費として計上すべき

山口 邦政
 580万円の基金を建設補助金として支出するのは、元々当該施設のために積み立てられた基金ですので妥当です。町が貸与している施設の改修費120万円を補助金として支出するのは疑問。改修が必要なら町が施設改修費として計上すべき。

第52回多可町議会（9月定例会）賛否の公表

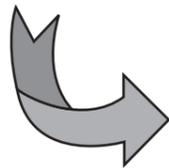
議案名	竹本克之	安田昇司	藤本英三	高澤榮子	草別義雄	横山鎌造	玉臺正明	大西一好	辻誠一	山口邦政	大山由郎	門脇幸澄	秋田清	山口雄三
平成24年度一般会計歳入歳出決算認定について	○	×	○	×	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	-
平成24年度特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	-
平成25年度一般会計補正予算(第3号) 予算決算特別委員会での修正案 安田・横山案	○	○	○	×	×	○	欠	○	○	○	○	○	-	-
平成25年度一般会計補正予算(第3号) 本会議での修正案 高澤・草別案	○	×	○	○	○	×	欠	○	○	○	○	○	○	-
TPP交渉からの撤退を要求する請願	○	○	×	×	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	-
TPPからの撤退に関する意見書	○	○	×	○	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	-

予算決算特別委員会：○印は賛成、×印は反対、秋田清委員長は賛否同数の採決以外は採決に加わりません。また、山口雄三議長は委員会採決に加わりません。
 本会議：○印は賛成、×印は反対、山口雄三議長は賛否同数の採決以外は採決に加わりません。全員賛成の議案は議会ホームページ (<http://www.town.taka.ig.jp/gikai/>)に掲載しています。

平成24年度も



給食センター用地 before



新給食センター after

税金は効果的に使うべし
高澤 榮子

国の政策誘導に手を出し過ぎて、町としての方向性が見えない。幼稚園や保育所のあり方、庁舎問題、結果として何も決められなかった。目的意識が薄く、漫然と消化している事業が多い。事業仕分けの効果が薄い。ご用聞き行政になっている。

反対討論

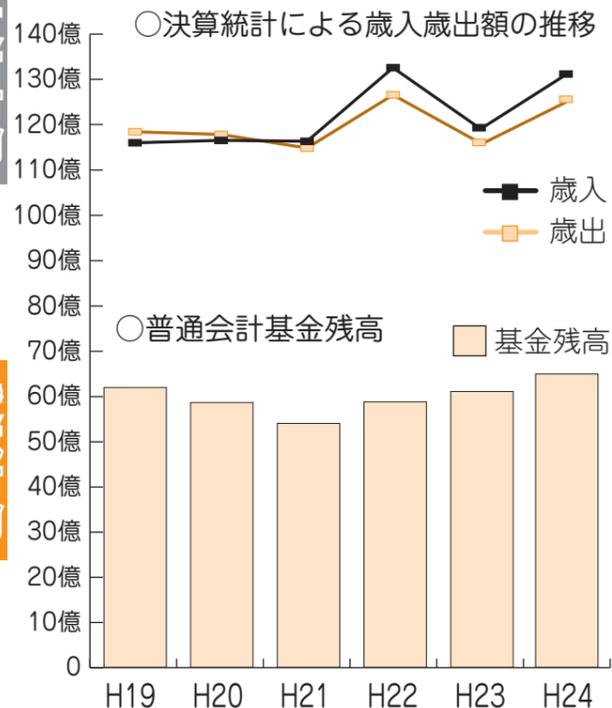
賛成討論

健全経営と判断

山口 邦政

健全経営と判断
山口 邦政

昨年比約10億円の増額要因は、学校給食センター建設費、平成23年の台風災害復旧費、合併特例債事業で必要な事業。実質公債費比率、実質収支比率、将来負担比率も健全な数値。単年度収支も2億円以上の黒字で、基金積み立ても2億円で

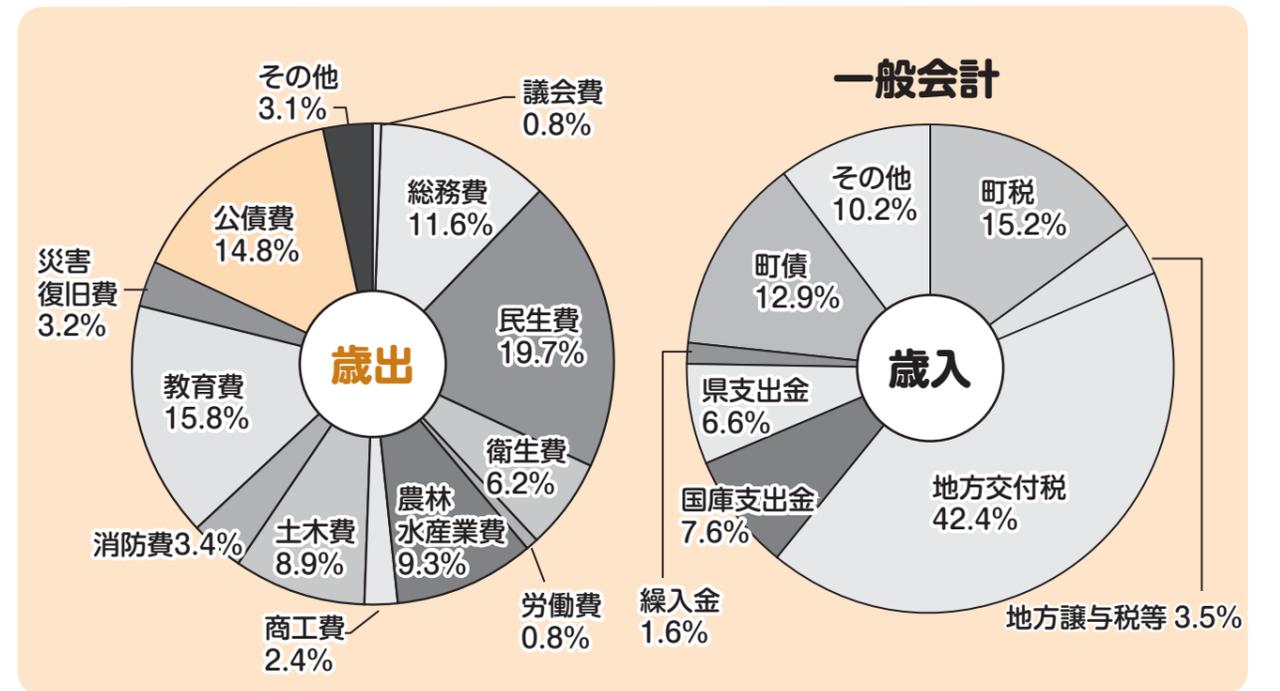


健全財政を維持

9月27日には賛成10人、反対2人で平成24年度一般会計決算を認定しました。

24年度は一般会計で総額127億6388万円。23年度比12億7474万円増の予算でした。

これは、平成23年9月の12号台風災害の復旧費や、(仮称)山野部坂トンネルや給食センターの建設などの合併特例債事業が実施されたことによるものです。財政健全化を計る実質公債費比率(収入に対する借金返済の割合)は、14.9%、実質収支比率(実質収支を標準財政規模で割った値)が4.1%、将来負担比率(将来支払う可能性のある借金の一般会計に対する割合)が35.7%となっており、実質単年度収支は、2億1715万円の黒字となり、3年連続で貯金からの取り崩しがなく、24年度は、2億円を貯金しました。



	22年度	23年度	24年度
新たな借金	26億8785万円	10億893万円	16億9488万円
元金返済額	29億242万円	16億2468万円	16億3756万円

こんなんでない これどうなってるの

9月定例会での一般質問は
9月19日と20日の2日間にわたって、
8人の議員が行政全般について質問しました。



※8名の質問者がありました。内容は次ページからですが、紙面の都合上カットしている質問もあります。

質問議員	質問内容	掲載ページ
大山由郎	難聴者の福祉・安全を推進せよ	P8
安田昇司	町道川東線の寺内～門前間は	P9
	地域局のあり方を考えるべき	
山口邦政	大学との包括的連携を進めよ	P10
藤本英三	全国学力テストの評価は	P11
	道路脇の植栽管理	
大西一好	防災の条件整備は万全か	P12
	生きる力の醸成をさらに	
	真の人権文化の社会づくりへ	
門脇幸澄	ハーモニーパークは廃止を	P13
	有害鳥獣対策を強化せよ	
竹本克之	町道光竜寺中池線工事の完了はいつか	P14
	災害に強いまちづくりを	
辻誠一	子どもへの防災教育を	P15
	全ての公共施設に幼児と利用できるトイレを 財政計画について	

条例 延滞金の利率を引き下げます

長びく不景気で民間市場では延滞金の利率も下がっています。多可町では、今年に入って町税、国民健康保険税、介護保険料などの延滞金の利率を引き下げてきました。今期定例会では、残っていた後期高齢者医療保険料、町営住宅家賃の延滞金の利率を引き下げる



町内に411戸ある町営住宅

ことにしました。この度の改正で町営住宅の家賃は、公債権から私債権に位置付けが変わります。
問 公債権から私債権に変わると何がかわるのか。
答 公債権は町が強制執行しなければなりません

が、私債権は裁判所に提起することで実施されるようになります。
問 時効についてはどうですか。
答 公債権は5年ですが、私債権は、まちまちです。町営住宅の家賃は、5年です。

県猟友会西脇多可支部と多可猟友会有害鳥獣駆除班が、23年度から2年間に実施したシカの駆除費に過誤があったことが、調査の結果判明しました。
この度、町が返還を求めた金額は、30万9000円に5%の利息を加えた32万9000円。
問 具体的に何が過誤だったのですか。
答 活動日数が2年で33日間違っていました。1日当り9375円の

猟友会からの返還金受入 補正予算

返還を求めます。
問 この制度は、22年度からのものですが、22年度は過誤はなかったのですか。
答 22年度は県の制度です。捕獲頭数で15頭、活動日数で70日の過誤があり、利息8万9314円を加えた84万3064円は、直接県に返還されます。
議会では、今後このような過誤の防止策を求め受入を可決しました。

後期高齢者医療保険料の延滞金の利率

納付日	改正前	改正後(※)
納期限後1ヶ月以内の場合	4.3	3.0
納期限後1ヶ月を超える場合	14.6	9.3

(※)貸出約定平均金利が1%の場合

工事請負契約



下水処理施設を機能強化

将来の施設統廃合を見据えた中区と加美区の下処理施設の機能強化工事をします。

中区
契約金額 6804万円
加美区
契約金額 5113万5千円

請負業者
大阪市 ㈱日立プラントサービス

工期

平成25年10月10日、平成26年3月20日まで
審議の結果、全員賛成で可決しました。



大山由郎議員

問 難聴者の福祉・安全を推進せよ
答 きめ細やかな対応で取り組む

大山 高齢化が進む日本では約2000万人の難聴者が存在すると言われていますが、半数の人に難聴の自覚がないのが現状です。
難聴には、伝音難聴、感音難聴、混音難聴があります。
難聴は高齢者だけの問題ではありません。早期発見、早期教育が必要な子ども達から高齢者まで、きめ細やかな対応をすべきですが、町の現在の取り組みについて説明を求めます。
①町内の難聴者（聴覚障がい者）の実態の把握は十分できているか。
②難聴の程度が規定以上になると補聴器の購入時に、自立支援法に基づき補助が出ますが、このことも含めて、補聴器の必要な住民への支援はどうか。
③クリアな音を提供するヒアリングループの周知活用をすべきだ。
④聴覚障がい者への火災警報器の100%設置をめざせ。

町長

①聴覚障害の把握は、障害者手帳の所持者にとどまっていますが、病院、ケアマネジャー、相談員、身体障害者福祉協会、民生委員などの協力を得て、障害者手帳を所持することのメリットを伝えていきます。
②主治医の診断のもとに交付される障害者手帳ですが、取得されることにより、補装具、補聴器の購入時に補助を受けることができます。手帳の取得が支援の前提となるため、病院での受診、主治医への相談などの窓口機能の強化、指導を進めています。
③磁気誘導ループの必要性は十分承知をしています。町の施設では「ささゆりふれあいセンター」に常設型が配備されています。その活用について



存在や効果を研究し、町民への周知も含め、有効活用を進めます。
④必要であるにもかかわらず、情報不足によって設置ができない方がないよう、制度周知をはかります。ご指摘の部分は命にかかわる問題です。前向きに対応をします。



安田昇司議員

問 町道川東線の寺内～門前間は
答 北部を整備してから門前まで



松井庄大橋から中区方面をのぞむ

安田 新町建設計画では、アクセス道路整備事業で、「旧町間の地域間交流や連携が円滑に進むよう、中町から加美町、また加美町から八千代町間を結ぶアクセス道路を整備する」と明記してあります。
これに基づいて工事中の（仮称）山野部坂トンネルは貫通式も終わり、来春には開通の予定となりました。また、加美区

と中区を結ぶ川東線は、現在、豊部と箸荷を工事中ですが、車で走ってみますと、状況は下層基盤の整備はほとんど終わって、後は上層舗装・交通安全施設工事等を残すのみになっています。
さて、そこで次は合併の条件整備でもあり、特に加美区からの南下道路として要望の高い寺内の松井庄大橋から門前で国道427号にタッチするまでの約1300mほどの区間について工事着手すべきと考えますが、どのような進捗状況になっているのですか。
県道整備については、

町長

町道川東線につきましても、多可町幹線道路網整備の基本方針についてご協議いただき、中区の田野口まで整備計画を延長し、中区の外環状道路としての整備が有効との提言をもらっています。

県当局のご努力により早くなり、今年の12月には待望の県道丹波加美線が開通の予定と聞きました。本当にありがたいことです。良かったと思うものです。こうなりますと、通過交通量の大幅な増加も予測できます。町道も必要なインフラ整備は一日も早



山口 邦政 議員

問 大学との包括的連携を進めよ
答 今後の町づくりに有効な手段

山口 文部科学省の大学改革プランの中で、地域再生の核となる大学づくり、COC（センター・オブ・コミュニティ・アクション）構想の推進が上がっています。全国の多くの大学では政策系の学部の新設や地域連携部門の整備をおこない、地域との連携を模索しています。

自治体の大学活用のメリットは、大学の知識だけでなく、教員の人脈、信用力、アイデアなどを活用できる、大学の総合力が地域振興に総合的に活かされる点などがあります。大学の総合力には教授や学生などの人、政治・経済・経営・商工業・農業・医療・福祉などの過去の研究の蓄積、図書館機能など様々な分野があります。

多可町でも神戸大学や兵庫教育大学と連携協定を結んでいます。特定分野に絞った協定ではない

でしょうか。大学の持っている資源を有効活用して、多様な分野での包括的に密接な協力関係を築く必要があると思うが。



大学生の知恵をかりて集落活性化を目指す -岩座神-

町長 指摘のように町では2大学との連携協定を結んでいます。今のところ特定の大学に絞った総合的な包括的連携協力体制をつくる

ところまでは至っていません。

相互の人材育成を目指した息の長い連携のためには、包括的に緊密な協力体制をつくることは、これからの町づくりに有効な手段だと考えます。現状では、大学や教授の方との個別の協力体制は、各種計画、委員会、講演会、各種調査等でおこなっています。現状を整理して継続的な課題として検討していきます。包括的な連携を進めるため、コーディネートできる町の窓口の一本化も考えていきます。



藤本 英三 議員

問 全国学力テストの評価は
答 一層の学力向上に努めます

藤本 4年ぶりに小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力テストの結果がこの度公表されました。

多可町の小学校6年生は国語・算数とも全国と兵庫県の平均より下回っており、中学校3年生は国語・数学とも上回っていました。この結果、内容について

①生徒・児童はもちろん校内や各家庭にも公開されるのでしょうか。

②多可町内の学校ごとや近隣市町の学校との比較はなされましたか。

③県教育委員会は来年1月に指導方法の対策をまとめるとのことですが、本町の指導方法はまとめられていますか。

以上のことを検証することによって子ども達の学力が更に向上するものと考えます。

教育長

調査の結果にこの平均正答数で多可町と全国との比較を数値で公表します。しかし、学校ごとや近隣市町との比較はしません。生徒や保護者には、それぞれの個人データとともに、教育委員会と学校が分析した結果を配布し、成果や課題を共有しています。今後の指導としては、10月に各学校の担当者が集まり、結果分析委員会の課題や今後の取組について検討し、一層の学力向上に努めます。

道路の植栽管理は安全か

藤本 県道山南多可線の中町南小学校から加都良大橋の手前までの、左右両方の緑地帯にケヤキが植栽されています。春から秋にかけては、背丈や枝葉も成長しますので、車で初めて利用する方に

とっては見通しが悪い道路です。

また、JR鍛冶屋線跡の中町中学校から、元鍛冶屋駅までの遊歩道については、防犯灯が設置されていますが、樹木があまりにも伸びすぎて、防犯上からも危険と思われる。

また、他の道路でも自然林が覆いかぶさり、カーブ等で見通しが悪い所がないでしょうか。

安全第一の視点で調査します

県道・町道・遊歩道の植栽について、現状調査したうえで、地元の方や、区長さんと対応協議をしながら、安全で安心な道路となるよう植栽管理に取り組みます。

披 監



ケヤキが並ぶ中町東線



大西 一好議員

問 防災の条件整備は万全か
答 自主防災組織の育成から

大西 集中豪雨と森林の高林齢化により山に保水力がなく、一挙に激流となり災害を引き起こしているため整備の早急な対策が必要では。一方、消防団員の減少に伴う地域での自主防災組織の確立が急がれるがその整備状況は。

町長 平成23年12号台風で治山要望が100カ所ほど整備中です。消防団員・防災士・区長・民生委員をリーダーとして、地域消防を自主的に組織して活動をする施策を推進中で、27年度で仕上げる予定です。防災士は各集落2名を目途に養成中で、住民の安心心の確立に鋭意努力します。

大西 全国学力学習状況調査から見えてくる家庭生活との関連はどのようになっているか。学力

生きる力の醸成をさらに

大西 全国学力学習状況調査から見えてくる家庭生活との関連はどのようになっているか。学力



人権週間に毎年開催される町民の集い

テストの結果、弱い子どもに対する指導はいかに。

個別に補充・支援を

教育長 2時間以上テレビ・ビデオを

見る一小66%（全国63%）中34%（全国56%）となっており、学力と家庭生活とは大きな関連があるように思われます。支援の必要な児童生徒への対応は、町費加

配支援員による個別支援、教員による放課後・夏休み中の補充、そして、ボランティアの方による月2回の土曜学校の開催等で力をつけています。

真の人権文化の社会づくりを

大西 部落差別事件がなせくり返されるのか。同和行政のあり方が問われている。問題の解決は

禁止、救済、教育・啓発により社会システムの変革が必要ではないかと思う。教育でも価値観が白紙の子どもにどのようなモノサシをどこで作るべきか。

町長 まだこんな状況で本当に申し訳ないという思いで一杯です。自分との関係性が出てきた時、表面化します。まだまだ人の心の教育というのが大事と考えます。価値観の多様化と格差拡大の不安の中から他人の痛みに鈍感で過剰な自己主張が目立つ世の中になっていきます。部落問題は部落の問題ではなく、他の人がどう考えるかの問題です。

教育長 全教育活動を通じて、児童生徒の発達段階に応じて人権教育を進めています。

調整を急ぎ着手します

建設課長 中池の工区は9月17日に入札を終え早急に着手します。残る用地・物件については、現在交渉中です。また、交差点付近の用排水路についても改善案を検討中であり、26年度完了を目指して努力します。

光竜寺中池線の完了を急げ

町長 八千代区の町道光竜寺中池線は合併特例債で3年前に工事が始まったが中池のそばと倉庫のところまで工事がストップしたままです。またその交差点の所は排水路と用水路が交差しており、大雨のたびに危険な状態になります。工事の完成と水路の改修を急げ。



門脇 幸澄議員

問 ハーモニーパークは廃止を
答 ゼロベースで見直します

門脇 ハーモニーパークは指定管理料が約4000万円が一番高く、事業収入はわずか1600万円余りで、費用対効果は0.4で最低です。リンゴや梨の栽培継承農家も後継者はなく激減。この8年間の指定管理料約3億2000万円は町くみ健康の個人負担分を97年間無料でできる金額です。今年の事業仕分けでも不要廃止の判定ができました。廃止せよ。

町長 事業仕分けで明らかにになった問題点や意見書の内容を最大限尊重し、12月に町の方針を出します。ハーモニーパークを含め、28年度までに全ての施設の管理のあり方や方向性について協議をしていきます。

経営企画課長 リンゴや梨1個の原価は出せませんが客単価では、客一人当たり4700円のパーク側の持ち

出すで赤字です。

有害鳥獣対策を強化せよ

門脇 最近シカだけでなくアライグマやヌートリアの被害も多くなっています。この小動物は繁殖力が強く、山へ入ったり、側溝を行動します。これらの特性を研究し、住民と協力し適切な駆除方法を実行すべき。また猟友会会員の拡大などを強化せよ。

集落と協力体制を急ぎたい

産業振興課長 県では年頭のシカの捕獲を目指しています。町は、捕獲檻の貸し出しや資材の3分の1を集落に補助しており、猟友会とともに集落ぐるみで防除にあたっています。

外来生物の駆除については、毎年農会長を対象に講習を実施し、「捕



畑作物を荒らすヌートリア



竹本 克之 議員

問 災害に強いまちづくりを
答 災害未然防止に努力する

竹本 近年はゲリラ豪雨が保水力の低下した山から一気水を誘い至る所で田畑・家屋に被害をもたらしています。そこで、避難勧告を重要視しない住民意識の改革について伺います。

町長 上流の市原で時間雨量113mmの豪雨でも下流は小雨の現象が、避難の必要性を鈍化させ、併せて他の有効な手段での移動を控えられたことも考えられます。

情報共有・伝達のあり方を再考します。
竹本 奥荒田川のように災害復旧箇所が再び被災する例や、豊部の郷領谷のようにダム設置工事の流末処理不備による再三の浸水等の対策を伺います。

建設課長 岩座神地区の多田川は、急流で流速が早い上に大きな石が流れてくるため、土砂流出対策や縦断

勾配の修正等が必要と考えます。

豊部郷領谷の治山ダムは、ダム南側の谷からの土砂流出もあります。また、ダム下の既設水路も幅80cmと小さく暗渠区間80mと長いため表面排水の処理が難しい状況です。現地調査の上、原因究明と対策を検討します。

救監 奥荒田川を管理する県では、

流速を弱める復旧工法等の検討が進められています。想定外の雨量にも壊れない工法となるよう要望します。

竹本 山の保水力増強についてはどうか。

産業振興課長 緊急防災事業・混交林整備事業を毎年実施し、保全機能

を高め、災害未然防止に努力しています。
竹本 被災時に孤立可能性地域の恐れもあり、

情報収集や伝達に多可町



平成25年9月2日越流直前の多田川



辻 誠一 議員

問 子どもへの防災教育を
答 防災教育を充実させる



安心して子どもと出かけられます

辻 9月2日早朝の豪雨は、町が中町南小学校区2200世帯、6600人に避難勧告を出した10分前には、中区の日赤橋付近の水位は、氾濫危険水位を約50cmも超える3・48mにまで達していました。しかし、避難勧告に従ったのは、2世帯3人のみでした。教育委員会の調べではこの日、小学生の18・1%、

中学生の21%が子どもだけで過ごしていました。子ども達だけで不安な時間を通じている子ども達に対して、学校として何らかの対応が必要なのではありませんか。

また、自分の住んでる地域がどんな災害の時にどのような危険な地域になるのか、子ども達に具体的に教えておく必要があるのではありませんか。

教育課長 子ども達が自宅にいる場合の安全確保については、保護者に責任を持つていただくのが基本ですが、子どもだけで自宅で過ごした、過剰なことを得な

かった小中学生が約2割もいる事から、今後は、PTAと十分相談をし、一緒にやって、どう子ども達に対応していくのか早急に考えます。

また、今まで以上に子ども達に、自分で行動する力、自分の危険を予測して、それを回避する能力を高めていく防災教育を進めます。

全公共施設にベビーキープを設置せよ

辻 公共施設では、加美プラザ、八千代プラザ、道の駅などのトイレに、幼児用の椅子（ベビーキープ）が設置をされています。ベビーキープがあると、小さな子どもを持つ住民が積極的に

多目的トイレの活用を検討する

総務課長 民間の調査では、トイレ

が利用しにくいために未就学児の母親の35%は子どもと外出しにくいと答えています。ベビーキープは両プラザの男女のトイレに各1つ設置してあるだけで、その他の施設にはありません。男性トイレにもベビーキープを設置することは、男性の子育て支援のためにも大事ですから、既存の多目的トイレに機器を設置する検討をします。

総務文教常任委員会

杉原谷小学校校体育館現地視察



改装中の杉原谷小学校体育館

と棟木の接続部分)にも補強鉄板を施し、またコンクリートの欠損部分も発見され、修復されました。これにより工事が約1ヶ月遅れます。その後、中町南小学校へ行き、学童保育室が耐震建築でないのと、児童が増え手狭になったため、南校舎の1階と2階の2つの空き教室が学童保育室としてきれいに改装されていました。1階・2階とも校舎の西側に寄せており、さほど不便を感じませんでした。

9月18日に設計図との違いが発見されたために追加が必要となった杉原谷小学校校体育館に視察に行きました。屋根裏を確認しました

が、柱脚部分(梁・桁・柱の接続部分)10ヶ所に補強鉄板と補強ボルトを、使用して強化をはかっています。シャーンネット受け(柱



美しくなったにここクラブ

また翌日の19日には、今年4月にオープンした学校給食センターのご飯がまずいとのこと、全議員で7月に一度試食をしましたが、あまり評価は良くなかったです。しかし、今回は改善されていました。

生活環境建設常任委員会

TPP交渉からの撤退の意見書を賛成多数で可決

9月3日、兵庫県農民運動連合会の代表者永井修さんより、TPP交渉からの撤退を要求する請願が提出されました。農林漁業、食の安全、医療制度、保険など、日本国民の生活全体に影響のあるTPP交渉に、今年7月、政府は参加しましたが、①国民的議論が不十分だ②国益を守る保障がない③情報公開ができていないなどの声が上がっています。議会は、生活環境建設常任委員会にて、①実現の可能性②意見書を提出することの効果などを検証しました。本会議では、賛成8人、反対4人で請願を採択し、意見書を関係機関に送付しました。

賛成討論

TPP参加は主権放棄で亡国だ

門脇 幸澄

TPP参加は残留農薬の危険や狂牛病、遺伝子組み換え食品の輸入で食の安全が脅かされ、また保険のきかない自由診療導入で国民皆保険制度が崩壊します。公共工事も外国企業が参加でき国内や地元業者が危機になる。TPPから撤退せよ。

反対討論

国際的信用が失墜する

藤本 英三

政府は今年の7月にTPP交渉参加をすでに表明し、3回ほど交渉のテーブルについています。現段階で交渉から撤退することは、日本の国際的信用が失墜します。それよりも今後は、いかに有利な交渉を進めるかが大切です。

地方に森林整備の財源を

全員賛成で陳情を採択

8月6日、全国森林環境創設促進議員連盟会長より、「森林吸収源対策及び、地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情書が提出されました。この意見書は、自然災害などの脅威から、国民の生命財産を守るための、森林・林業・山村対策の根本的な強化

をはかることに加え、二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する、市町村の役割を踏まえ、「石油石炭税率の特例」による税収の一定割合を、森林面積に応じて譲与する仕組みの構築を強く求めるとしています。慎重審査の結果、全員賛成で採択し、国に意見書を送付しました。

TPPからの撤退に関する意見書

政府は、7月にTPP交渉に参加した。TPPは農林漁業、食の安全、医療制度、保険など、国民生活に広く影響を及ぼし、ISD条項は国家主権を揺るがしかねない重大な問題を含んでいる。

こうした不安や懸念が払拭されないまま、交渉に参加したことは重大である。これまで、44道府県や全市町村の8割余に及ぶ議会が反対ないし慎重な対応を求める決議を行い、広範な分野の団体が交渉に反対してきた。国論を二分した世論状況にあり、総選挙での与党の公約に照らしても交渉参加は到底、理解されるものではない。

政府はこれまで再三にわたって「国益を守る」とし、与党は農産品5品目の関税撤廃の除外を決議してきたが、政府の交渉方針は明確でなく、守れる保障は全くない。さらに政府は、情報開示を約束し、国民的議論の重要性を強調してきたが、交渉に参加するにあたって結んだ秘密契約を盾に、情報の公開を拒否している。このまま推移するならば、国民は交渉の内容や経過を知ることなく結論だけを押し付けられる危険性があり、到底容認できるものではない。

衆参の農水委員会は農産品5品目の関税撤廃が除外できない場合は、交渉からの離脱することを明記した決議をあげ、自民党も参議院選挙で同様の公約を打ち出して選挙をたたかった。

このように、国民的議論の不十分さに加えて、国益を守る保障がなく、情報すら公開できないTPP交渉は撤退する以外ない。

以上の主旨から下記の事項を求める。

- 1. TPP交渉の内容を国民に開示すること
2. TPP交渉から撤退すること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年9月27日

- 衆議院議長 伊吹文明 様
参議院議長 山崎正昭 様
内閣総理大臣 安倍晋三 様
内閣官房長官 菅 義偉 様
総務大臣 新藤義孝 様
外務大臣 岸田文雄 様
農林水産大臣 林 芳正 様

多可町議会議長 山口 雄三